韓国 クルーズ旅行誘致へ進むインフラ整備

五大寄港地を拠点に文化、癒やし、グルメの旅へ

韓国観光公社は、韓国へのクルーズ誘致、寄港地の旅行商品開発を目的に、「2018コリア・クルーズ・トラベル・マート」とファムツアーを6月28日から7月1日まで、韓国・ソウルとクルーズ寄港地で開催した。海外から日本、台湾、オーストラリアなどの旅行会社、クルーズ客船会社、メディア関係者、パワーブロガーなど約40人が参加。韓国からは港湾を抱える自治体、観光関連企業など約90人が参加し、韓国のクルーズ五大寄港地の現状を説明。旅行商品の造成と情報発信を呼び掛けた。トラベルマートの模様と、記者が訪ねた済州（チェジュ）島の港湾と主要観光地を中心に紹介する。

大型客船が停泊する済州港（写真提供＝済州観光公社）

済州

世界最大22万トンの船も接岸可能

韓国本土の南に浮かぶ済州島は、「東洋のハワイ」と古くから韓国人に親しまれているリゾート島だ。島北部の済州島第1の都市済州市と、島南部の第2の都市西帰浦（ソギポ）市がその玄関口で、ともに最新設備を持つクルーズの国際旅客ターミナルが整備されている。

済州市のクルーズ専用ターミナル「済州港国際旅客ターミナル」は2012年に開港した新しいターミナルで、市の中心から車で5分ほどにある。最も大きいふ頭は長さ360㍍、水深12㍍で、14万㌧級の船の接岸が可能だ。

一方、西帰浦市のクルーズ専用ターミナルは高級リゾートの中文観光団地に近い江汀（カンジョン）地区に今年完成したばかりだ。こちらはさらに規模が大きくふ頭の長さ1110㍍、水深12～15㍍で、世界最大の22万㌧級の船が接岸可能。目の前に2002年に行われたワールドカップサッカーの競技場、遠くに済州島のシンボル・ハルラ山を一望する景色の良さも自慢だ。

済州港国際旅客ターミナル

西帰浦港国際旅客ターミナル

済州島の主な観光地を紹介しよう。済州市の東門市場、西帰浦市の毎日オルレ市場は、オレンジなどのフルーツや魚介類、日用品を販売する市民の台所だ。韓国の庶民生活の一端を垣間見られる。

済州東門市場

西帰浦毎日オルレ市場

済州市の民俗自然史博物館は、済州島の人と自然の歴史を展示する資料館。近くにはかつて済州島にあったタムナ王国をつくった3人の神人が誕生したという伝説を持つ三姓穴がある。

民俗自然史博物館

城山日出峰は島の東海岸にある高さ180㍍の丘で、水中火山の噴火により形成された典型的なタフコーン（火砕丘）。2007年に世界自然遺産、2010年に世界ジオパークに登録された。

城山日出峰

城山日出峰の近くには、海を一望する景勝地で、韓国の人気ドラマ「オールイン」のロケ地になったソプチコジがある。

島の西側にはさまざまなミュージアムがある。そのうちの一つ、オーソロック茶博物館は、韓国の有名な緑茶メーカーが経営するお茶に関する博物館。周囲に広がる茶畑の景色が美しい。

「思索する庭園」は、1992年造成された盆栽のテーマパークともいえる庭園。「世界で最も美しい庭園」と呼び声も高く、中国をはじめ世界の要人が訪れている。

オーソロック茶博物館に隣接の茶畑

西帰浦の港に近い大浦海岸柱状節理は、海岸約2㌔に展開する奇岩群。火山の噴火で流出した溶岩が冷めて固まり、五角柱や六角柱の岩柱がいくつも重なるユニークな形になった。

「思索する庭園」

西帰浦の市街地には、韓国の天才画家で、同地ゆかりのイ・ジュンソプ（1916～1956）の美術館と、その名を冠した散策路がある。おしゃれなカフェやアクセサリーを売る店があり、若者らに人気だ。

釜山

釜山は博多港からジェットフォイルで3時間。気軽に行ける外国だ。

釜山港国際旅客ターミナルは、高速鉄道KTX釜山駅からすぐの便利な立地。駅や南浦洞国際市場を結ぶ無料のシャトルバスも運行している。

南浦洞国際市場は1950年代から国際的な商品が取引されている市場。庶民的なグルメを楽しめる富平市場や土産を調達できるアリラン通りの散策も楽しい。街を一望する釜山タワーや海産物を扱うチャガルチ市場も外せないスポットだ。

海雲台、広安里の二つの海水浴場は夏の定番スポット。海雲台のセンタムシティは人気のショッピングスポットだ。

仁川

韓国の近代史にその名を残す仁川。韓国の空の玄関口で知られるが、港湾の歴史も古い。現在は15万㌧級の船舶が入港するが、来年は22万㌧級の世界最大のクルーズ船も入港できる専用ふ頭とターミナルがオープンする予定だ。

港からはタクシー乗り場に行く内部循環シャトルバス、新浦国際市場、松島国際都市を結ぶ観光地循環シャトルバスの2種類の無料シャトルバスが運行している。

新浦国際市場は仁川が開港した時にできた100年の歴史を持つ市場。

松島国際都市は仁川を代表する新都心で、市立博物館や韓屋村などの見どころがある。

麗水

韓国本土南西部の麗水は2012年に万国博覧会（エキスポ）が開催され、世界から注目を集めた。旅客船ターミナルは「麗水エキスポ旅客船ターミナル」の名称で、高速鉄道麗水エキスポ駅やエキスポ会場だった海洋公園にも近い。

観光地の一つオドンドは、海岸から768㍍の橋でつながる小島。3月に咲くツバキの花が有名だ。橋のたもとの陸地と別の島の公園を結ぶ、海を渡る海上ケーブルカー（ロープウエー）は足元が透明でスリル満点。

李舜臣（イ・スンシン）将軍が率いた水軍の拠点で、韓国に現存する最大の平屋木造建築、鎮南館も見逃せない。

束草

束草は韓国東部の江原道にあり、雪岳（ソラク）山など豊かな自然に恵まれている。束草港国際クルーズターミナルは市内中心まで車で5分ほどで、雪岳山地域へ15分、襄陽（ヤンヤン）国際空港へも20分と近い。

市内地域では、戦争で故郷の北朝鮮側に帰れなくなった失郷民が定着したアバイ村が有名。アバイとは北朝鮮の言葉で父親の意味。故郷を思い、作り始めたという伝統料理がおいしいと評判だ。

「アバイスンデ」「オジンオ（イカ）スンデ」などで、これらは束草観光水産市場でも味わえる。

雪岳山地域ではトレッキングや温泉入浴が楽しめる。

2018コリア・クルーズ・トラベル・マート

6月28日 ソウルで開催 世界の旅行会社が商談

韓国観光公社は6月28日、ソウル市内のホテルで「2018コリア・クルーズ・トラベル・マート」を開催した。韓国の港湾を抱える自治体、日本など世界の旅行会社が参加し、活発な商談を行った。

韓国の関係者は、済州、釜山（プサン）、仁川（インチョン）、麗水（ヨス）、束草（ソクチョ）の、韓国のクルーズ五大寄港地を説明。インフラの整備状況や周辺の観光地をアピールした。

昨年の訪韓観光客数は1333万人。そのうちクルーズでは50万人が訪れている。

国・地域別では中国が構成比63%とトップで、2位が同16%の日本。港別では中国からビザなしで入国できる済州が同53%でトップとなっている。

ただ、在韓米軍のミサイル「THAAD」（サード）の配備問題で昨年3月20日から、中国から韓国へのクルーズ旅行が全面的にストップしており、現在もその状況が続いている。

韓国側の関係者は、早期の終息を望むとともに、日本からの多くの来訪を期待している。

韓国の港湾整備状況を説明

個別商談会も行われた

イ・ジュンソプ路

大浦海岸柱状節理

取材協力・韓国観光公社